

国際理解教育を求めて

第 63 号

令和 6 (2024) 年 3 月 1 日

発行 十勝地区国際理解教育研究会 代表 野中 利晃
担当 広報部 (新得町立新得小学校内)

「フロンティア精神を受け継いで」

十勝地区国際理解教育研究会
会長 野中 利晃
(帯広市立帯広小学校)



令和 5 年 1 月 1, 2 日、森の交流館、JICA 北海道・帯広、帯広市立大空学園義務教育学校を会場にして「第 33 回全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会北海道ブロック大会」「第 44 回北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会」「第 44 回十勝地区国際理解教育研究大会」「第 2 回帯広市立大空学園義務教育学校公開研究会」が盛大に開催されました。本大会に関わりましては、北海道教育委員会を始めとして、帯広市教育委員会、JICA 北海道・帯広他、多くの関係の皆様のご理解とご協力を賜り成功裏に終えられましたことに厚くお礼申し上げます。

さて、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、全道大会と十勝大会がともに 44 回となっているのは、第 1 回目の全道大会が十勝で開催されたからです。その後、ほぼ 10 年周期で開催地区を引き受け、今回が 5 回目の十勝開催となりました。

そもそも本会 (十勝地区国際理解教育研究会) は、昭和 51 年 1 月 28 日に「十勝管内海外教育事情研究会」として発足しました。最初は、長短期で海外に派遣された者が「税金を少しでも返還しよう」と考え立ち上げたと記録には残っています。そんな折、道の会長から「第 1 回目の全道大会を十勝でできないか」と誘いがあったそうです。国際理解教育に対して本会を立ち上げるほど熱い思いを持っていた十勝地区のメンバーは臆することなく引き受けることを決定しました。記録には、「十勝の先輩たちは、ものおじしない『フロンティア』であり、『十勝を全道研の発祥の地』としてしまった。」とも記されています。そんな第 1 回目の全道大会は、昭和 55 年 8 月 24 日に、参加者 60 余名で、十勝教職員研修センターを会場にして、「分科会」「パネルディスカッション」「講演」等の内容で行われました。

その後大会は、現在の様に「授業公開」や「研究協議」も加えられ、方法についても、いくつかの学校を会場にして行う分散会場形式や今回のように集合型とオンライン公開を組み合わせたハイブリッド形式など時代のニーズや要請に応えながら変化してきました。

また、本会についても、現在の十勝地区国際理解教育研究会と会名を改め、長短期の海外派遣者や在外教育施設を志す者のみならず、広く国際理解教育に关心を持ったメンバーが集う会へと変容してきています。

一方、コロナ禍で行われていなかった集合形式の全道大会を今回の様に再開させるなど、今なお「フロンティア精神」については、本会に脈々と受け継がれてきていると感じています。

むすびに、本会の更なる発展と 10 年後にまた十勝で開催される可能性が高い全道大会への期待を込めて「国際理解教育を求めて (第 63 号)」の巻頭言といたします。

事務局

事務局長 合田 真晃
(帯広市立啓北小学校)

- | | |
|-----------|--|
| 4月14日(金) | ○総会に向けた確認(役員LINE)
・総会の開催方法、開催に向けた調整
・全道大会の方向性検討 |
| 5月15日(月) | ○大豆の会(川上校長、野中校長)オンライン開催 |
| 6月 7日(木) | ○大豆の会(伊藤校長、野中校長)オンライン開催 |
| 6月 8日(金) | ○総会 全道大会実行委員会終了後

会長 野中 利晃 帯広市立帶広小学校 校長
副会長 稲葉 珠樹 池田町立池田小学校 校長
〃 河井 義徳 音更町立柳町小学校 校長
〃 小室 彰人 士幌町立士幌中央中学校 校長
〃 笠松真一郎 豊頃町立豊頃小学校 校長
〃 牧 伊津子 中札内村立中札内小学校 校長
研修部長 越智 卓 音更町立柳町小学校 教頭
研究部長 益子 忠行 音更町立鈴蘭小学校 教頭
組織部長 古村 俊大 帯広市立緑園中学校 教頭
広報部長 佐々木敦史 新得町立新得小学校 教頭
事務局長 合田 真晃 帯広市立啓北小学校 教頭
事務局次長 多田 明寿 本別町立勇足中学校 教頭
〃 岩崎 直希 帯広市立稻田小学校 教頭
会計 野田 剛 清水町立清水小学校 教頭
〃 森田 泰成 帯広市立柏小学校 教頭
監査 猪股 宏亮 幕別町立古舞小学校 校長
〃 森本 聰 本別町立本別中央小学校 校長 |
| 6月12日(月) | ○第1回役員会 総会終了後 |
| 6月13日(火) | ○大豆の会(村松校長、佐藤校長)オンライン開催
○関係機関への挨拶(野中校長、合田)
・帯広市教育委員会 ・十勝教育局 ・JICA 帯広 |
| 7月13日(木) | ○第2回役員会(兼全道7月役員会)
・第44回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会の開催について
→大会要項、二次案内、夏の学習会
・各部進捗状況確認
・「世界のともだち2023」の確認 |
| 7月28日(金) | ○大豆の会(伊藤校長、益子教頭、野中校長)オンライン開催 |
| 9月 5日(火) | ○第3回役員会(兼全道9月役員会) |
| 10月16日(月) | ○第4回役員会(兼全道10月役員会)
・全道大会に向けた各部進捗状況最終確認 |
| 11月 2日(木) | ○第44回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会
【授業公開】
1年 生活科 「むかしからのあそびをたのしもう」
授業者(松本美佳教諭、高畠瑠衣教諭)※学年合同
4年 総合 「世界のごみ問題を考えよう～日本と海洋ごみ～」
授業者(藤原悠大教諭)
5年 総合 「やってみよう！SDGs」
授業者(西村弦教諭、河瀬結教諭) |

- 7年 理科 「光・音・力による現象 1章 光による現象」
授業者（増田美次郎教諭）
- 8年 技術・美術・国語・総合 「総合福祉デザイン～発表～」
授業者（上野嗣弥教諭、神下朋実教諭、尾崎弥生教諭）
- 7～9年知的 生活単元学習 「【いただきます】からつながる世界」
授業者（福田翔教諭、筒井美有教諭）
- 1月 9日（火） ○北海道国際理解教育研究協議会 理事総会・研修会（JICA 札幌）
- 1月 27日（土） ○第5回役員会（兼全道1月役員会）
・第44回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会の反省
- 3月 ○第6回役員会
- 3月 ○派遣教員激励会（激励訪問に変更予定）
○会誌「国際理解教育を求めて」第63号発行

研究部

研究部長 益子 忠行

（音更町立鈴蘭小学校）

○ 活動経過報告

- 6月 15日（木） 第1回研究部会 第44回北海道国際理解教育 十勝・帯広大会について
・年間予定 ・研究の概要 ・研究授業に係る確認及び組織の編成 ・夏の学習会に係る指導略案の作成 ・指導案等の作成 ・授業別分科会に係る運営等の確認など
- 7月 27日（木） JICA 帯広 JICA 研修員と考える国際理解ワークショップについて
・アイスブレイク ・異文化理解ワークショップ ・学びの共有
- 7月 29日（土） 北海道国際理解教育研究協議会「夏の学習会」について
・全道大会十勝・帯広大会の授業に係る概略 ・質疑応答 ・意見交流
- 8月 31日（木） 第2回研究部会 第44回北海道国際理解教育 十勝・帯広大会について
・指導案に係る確認 ・授業別分科会に係る運営等の確認など
- 10月 23日（月） 第44回北海道国際理解教育 十勝・帯広大会に係る最終打合せ会議について
・授業内容、指導案、プレ研に係る確認 ・分科会の運営、内容に係る確認 ・大会後の分科会協議録及び研究収録の確認
- 11月 1日（水） 北海道国際理解教育研究協議会 理事会総会・研修会について
・各地区の研究推進に係る取組の交流
- 11月 2日（木） 第44回北海道国際理解教育 十勝・帯広大会

○ 令和5年度研究概要について

（1）研究主題（3年次計画の3年目）

多様な世界に関わり続ける行動力を身に付けた児童生徒の育成
～世界と関わり何ができるかを考え、主体的に行動する学びの創造～

（2）国際実践力の育成を目指して

「世界に対して何を知っているか」だけではなく「世界に対して何ができるか」「他者と協働して、いかに課題解決を行うことができるか」を学びのゴールとし、世界と様々な形で関わる授業づくりを通して、国際実践力を育成する。

• intake活動（「気づき」と「対話」のある学び）

児童生徒に異文化を理解させながら世界の現実に触れる蓄積を図るとともに、体験的な学習を通して、自分と世界のつながりを意識する活動

• output活動（協働的な学び）

対話を通して他者との違いや考えを吟味して統合し、課題を解決する方法を考えたり、討論したりする活動

• output活動（主体的に行動する学び）

自己の信念や価値観を吟味し、具体的な行為を選択し、いかに行動すべきかを決定し課題を解決するための主体的な活動

研修部

研修部長 越智 卓

(音更町立柳町小学校)

○ 活動経過報告

(1) 第44回北海道国際理解教育大会 十勝・帯広大会 第4回実行委員会 10月23日(月)

① 全体会

・研究大会における研修部(大会拠点部)の業務内容確認

② 部会

・大会前日、当日の確認

(2) 第44回北海道国際理解教育研究大会 11月1日(水)・2日(木)

① 当日まで

・渉外関係業務、掲示物準備、研究会封筒印刷、会場準備等

② 当日

・駐車場誘導、受付等

(3) 海外事情報告会・交流会 (JICA北海道(帯広)) 1月27日(土)

① 報告会の運営

・発表者・山崎 靖恵教諭(幕別町立札内東中小学校・元ハンブルグ日本人学校)

② 交流会の運営

○ 今年度の活動をふりかえって

- ・全道大会の運営に際し、熱心に研究を進めてくれた会場校の教職員や若手・ベテラン問わず意欲的に活動してくれる部員のおかげで、円滑に大会を実施することができたことに感謝したい。
- ・今年度も、帰国者の報告会を実施することができた。今後も、帰国者の実践の共有など、研修機会を設定し、十勝地区の国際理解教育の発展に寄与していきたい。

組織部

組織部長 古村 俊大

(帯広市立緑園中学校)

○ 「世界のともだち 2024(NGO ブース)」

ブースを出展。在外施設派遣を経験した教員による『世界で学ぶ子どもたち』と題してパネル展示を行った。今年度は屋外飲食スペースなどが充実し、来場者が増えてきていた。

○ 「第44回 北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会 展示ブースの開設」

研究会において、児童生徒への還元として授業内容に沿った国・地域の文化に触れるような展示物(『布』『楽器』『玩具』『衣装』など子どもが実際に手で触れられるもの)によって世界に触れる目的に、今年度は『世界の衣装』また、教員の授業へのアイディアの提供を考え、JICA帯広から『開発教育教材』の展示を行った。

○ 「第44回 北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会 デジタル配信」

ハイブリット方式による開催に際し、YouTubeライブ配信を実施した。音声配信には専門業者に依頼したことで質の高い配信を行うことができた。

○ 「会員数拡大と情報提供」

事務局および広報部との連携により会員数の拡大を目指し、国際理解教育への関心を持つ教員へのより良い情報提供を推進していく

○ 取材、HPへのアップロード

- 7月29日（土） 北海道国際理解教育研究協議会「夏の学習会」
11月1日（水） 第1回北海道国際理解教育研究協議会理事総会・研修会
11月2日（木） 第44回北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会
1月9日（火） 北海道国際理解教育研究協議会「冬の研修会」zoom参加
1月27日（土） 海外事情報告会・交流会

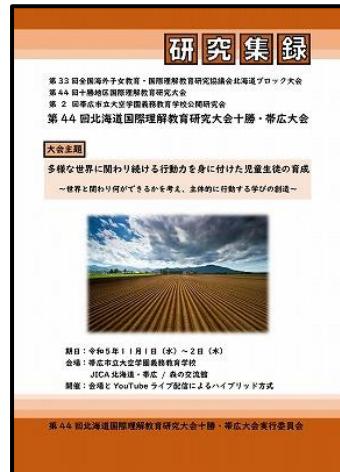
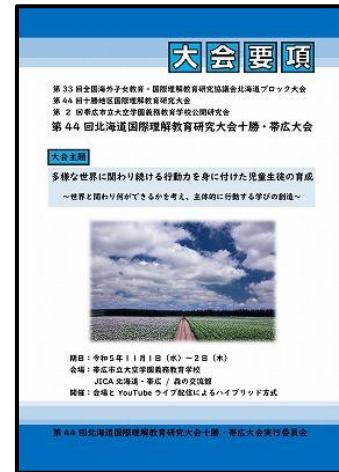
○ 第44回北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会 「大会要項」「研究集録」作成

- ・ 大会要項：スライドバーファイルで製本
- ・ 研究集録：音更更葉園へ「研究集録」製本依頼

○ 北海道国際理解教育研究協議会 会報 第106号 作成

○ 会報「国際理解教育を求めて」63号の発行

- ・ 各学校へはデータで、各教育委員会へは紙媒体で配付



【十勝国際理解教育研究会ホームページ】 <https://tokachikokusai.watson.jp/>

- ・ 「第44回北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会」 の取組の様子をアップロードしていますので是非ご覧ください。
- ・ 「大会要項」「研究集録」のデータもダウンロードできます。

○ 『国際理解教育を求めて』第63号をお届けします。今年度も紙媒体ではなくデータでお送りしますので、よろしくお願ひいたします。

○ 今年度は、北海道国際理解教育研究大会が11年ぶりに十勝・帯広で開催されました。帯広市立大空学園義務教育学校公開研究会との共催で行われた大会は、コロナ禍が明けきらないことや遠方の方々にも参加していただきたいことから YouTube ライブ配信とのハイブリッド開催とし、多くの方々に参加していただきました。また、アイディアを出し合って支出を抑え、参加費を徴収せずに大会運営を行うことにも挑戦し、大きな問題もなく無事に大団円を迎えることができました。会員同士は勿論、帯広市立大空学園義務教育学校の職員の皆様方と絆を深めることもでき、十勝・帯広大会は、達成感や充実感あふれるものとなりました。

○ 戦争・紛争や貧困、環境問題等、世界情勢は混迷を極めていますが、将来が見通せないこれからの中の国際社会で主体的に行動できる子どもたちを育成するために、これからも十勝地区国際理解教育研究会の活動を充実させていきたいと思います。